



新鮮野菜の還元販売コーナー。多くの方がカゴいっぱい野菜を詰めていました。



# 学生特派員レポート

vol. 2

江別市内の大学に通う学生さんに、町外に住む若者といった視点から自由に南幌町を取材してもらうコーナーです。

## 野祭～YASAI～

2018/9/1(土)



# CHIHIRO ENDO

## 楽しいから美味しいを創る



特派員

札幌学院大学大学院2年  
遠藤千尋さん

『農猿』は、農家さんに限定せず、まちづくりに関わっている人や塾の先生なども加わった15名のグループ。そんな農猿さんが主催する『野祭』では、美味しい野菜が安値で売られていたり、農業用トラクターとの綱引き大会が行われたり、トラクターの試乗ができたりと、普通のお祭りでは見ることでできないような光景が多く見られます。メンバーの皆さんからは、「野祭は、農家のことを知ってもらえたり、農業に触れてもらう一つのキッカケになっていて、まちのPRにもつながっていると思う。農猿＝南幌というイメージを定着させたい。」といった声や、「野祭は農家だからこそできるイベントで、今後は南空知のイベントといえれば野祭となるよう盛り上げていきたい」といった熱い思いも聞かれました。私たちが普段食べるものを実際に作る人と触れ合う機会や、トラクターに乗せてもらうような機会はなかなかありません。そのような中で、子どもが喜んでトラクターに乗る姿や、地元の美味しいものを食べる人々を見ると、まちの一体感を感じます。



## 訪れる人も迎える人も、皆が楽しめるお祭り

ボランティアとして参加する学生さんからも話を聞くことができました。酪農学園大学から来ていた女子学生は、野祭に来てトラクターが一番最初に目にとまり、とても印象的だったと話していました。大学でも農業について学ぶので、農業に触れることができるのは嬉しいとのこと。また、まちの方が優しく接してくれるので、自分たちも楽しみながら参加できているようで、「今後は、他の南幌町のボランティア活動にも参加してみたい！」と笑顔で話してくれました。まちの方々の温かみと、特色ある催しが生み出す交流の機会により、人の輪が広がっていく様子を見ているようでした。



# TOMOYA TAKAHARA



南幌産の

## 『野祭』の目玉は、やっぱり『野菜』だった

ふれあいまつりに続き、南幌のお祭りの取材は2回目。前回とはまた雰囲気異なり、大規模かつ活気溢れるお祭りといった感じでした。開始時間よりも10分早く会場に着きましたが、いきなり目に入ったのが大行列。始まってもないのに野菜販売のブースにはとてつもない数の人が集まっていました。キャベツ1玉100円に、ピーマンは1袋50円、白く美しいピュアホワイトは1本150円。どれも見ただけで新鮮さが伝わり、魅力あるものばかり。玉ねぎはなんと5キロで300円！南幌で採れた安全で美味しい野菜がこんなにも安く手に入るのかと衝撃を受けました。



特派員

北海道情報大学4年  
高原智也さん

## 更なる進化を志す農猿の皆さん

そんな野菜販売ブースにも引けを取らない盛り上がりを見せていたのが、ステージイベント。子どもから大人まで、一緒になって楽しめる催しの数々でした。また、お菓子すくいや輪投げのコーナーでは、小さな子どもたちが楽しそうに触れ合っていました。実は、私は昨年の野祭にもボランティアとして参加していましたが、その時と比べ規模も大きくなり、来場者の数も明らかに増えていました。これだけの規模のお祭りなので、長い歴史があるのかと思いきや、まだ3回目と聞いたときは驚きました。農猿事務局の城地さんは「来年は中央公園ですでるくらいに規模を大きくし、南空知のお祭りとして活躍したい」と言っていました。この活気と農猿さんの熱意なら、可能だと確信しています。



## 取材を終えて——

(遠藤) 城地さんから印象的なお話を聞きました。「親孝行は、親や上の人たちのために何かするんじゃなくて、自分の子供だったり、下の子たちを丁寧に育てることが、親孝行や恩返しになる。南幌町にはそういった風潮がある。」この言葉に感動し、今も頭に残っています。きっと、そういった風潮が素敵なまちを作っているのだと思いました。地域は、人で成り立つ。素敵な人が集まれば、そこは必然的に素敵な地域へと育っていく。目には見えない良さも南幌町にはあるのだと、感じた1日でした。



(高原)『楽しいから美味しいを創る』。農猿さんのエプロンにも大きく書かれたこのスローガンがあるからこそ、こんなにも生き生きとしたお祭りができるのだと感じました。新鮮な野菜を安く買えて、そして楽しめる、南幌町の農家さんと地域の方が創り上げた新しいお祭り。より多くの方がこの一大行事に親しみ、美味しい野菜に出会い、そして元気をもってほしいです。



学生特派員レポートは地方創生推進交付金を活用し、江別市を中心に近隣自治体とともに展開している広域連携事業「ジモ×ガク」の一環です。